

日本は核の実験場

多くの日本人は、日本の核武装はアメリカが許さないと考えています。しかし、アメリカはすでに方針を変更しています。日本がアメリカの管理のもとに核兵器を作ること許しています。そのことは、高速炉『常陽』と『もんじゅ』の使用済み燃料を再処理する技術をアメリカは日本に売ったことでも明らかです。

核兵器は2種類あります、ひとつは広島型の原爆、これはリトルボーイ(小さな男の子)と呼ばれています。これは長さ5メートル程度の大砲をそのまま用います。大砲の底に爆薬を詰め、その上に高濃縮ウランの円柱の弾を置きます。

大砲の先端は分厚い鋼鉄で覆い、その中に高濃縮ウランの円筒を置きます。そこで、この爆薬に点火するとウランの円柱は弾となつて飛び、ウランの円筒の中にはめ込まれます。そうすると核分裂反応が臨界になり、核爆発するので、単純な爆弾です。

この広島型原爆はあまりに簡単な構造ですから、不発弾になることはありません。したがって核実験は必要ありません。

簡単に爆発は確実という爆弾です。しかし、ウラン235の濃縮度60%を超える軍用ウランを数10キロも濃縮するには大量の電力が必要です。だからアメリカはこの爆弾

を終戦直前に一発しか用意できなかったのです。それも最後のウランのひとかけらが届いたのは

広島に投下する2日前で、テニアン基地でこの原爆を現地組み立てたといっています。

それからもう一つの軍用プルトニウムを使うファットマン(太った男)という長崎型爆弾、は構造が複雑です。

この原爆も最初はウラン原爆と同じ大砲形で設計されました。しかし、軍用プルトニウムに含まれる不純物プルトニウムのため、プルトニウムの円筒

の中にプルトニウムの円柱の弾をはめ込む前に核分裂反応が始まり、円柱の弾が柔らかくなって円筒の穴にはめ込むことができないのです。

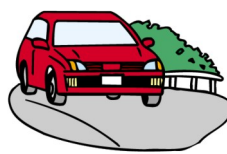
そこで、設計を変えて球形の爆弾にしました。穴の空いたプルトニウムの球の外側を爆薬で包みます。これを点火するとプルトニウムが中心に圧縮されて臨界になり、核爆発することになります。

しかし、構造が複雑なので、アメリカはこのプルトニウム爆弾が不発弾になることを恐れ、爆薬の球形が上手に作れないと、爆発させた時ひしゃげて、

プルトニウムを十分に圧縮することができないのです。そこで、核実験して爆発するかどうかをネバダで核実験して確かめました。

しかし、それでも実際の場面で核爆発するかどうか不安なので、この爆弾と同じ大きさの核抜き爆弾を50発こしらえてパンプキン(かぼちゃ)爆弾と名付け日本の各地にばらまきました。

プルトニウム原爆が不発弾になった時ごまかそうとしたのです。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2009年12月18日 (金) N087
地域から明るい未来を作ろう

愛しの知覧

意を決し一人羽田経由で鹿児島、知覧を目指した。鹿児島から桜島を左に車で40キロの山中、道沿いの用水に鯉が泳ぎ、電柱がない清楚な町並みです。

後で聞いたのですが、景観のため後ろに、見えないようにしているそうです。みんなよく考えています。特攻平和記念館に向かう道路沿いは、よく手入れされた街路樹と共に地蔵を彫った石燈が延々

と導いている。知覧から出撃した1036人を目標に町が全国に呼びかけ、12月現在既に1238基だそうです。生死を超えて大義

のため、十七才からの青年達、「俺の嫁は空母と決めた、お前には三国一の嫁を迎えてやりたいな」矢作一郎・23才「花は桜木人は武士」「一度は死んでみる

べえ」等、多くの遺書を残している。出撃前の記念写真の笑顔に、涙と嗚咽をこらえ切れない。私欲で汚れた民族のために命を賭したのではない。

入り口には六人の天女に抱かれ召され逝く特攻隊員の陶板があり、今も生花が絶えません。町の中心に裁判所、向かいに熊本国税局の知覧税務署(二十名)があり、当然ですが総務課に挨拶見学してきました。